

#### 第 무 4

発 行 鎌倉市材木座6-17-19 光明寺中神奈川教務所内 净土宗神奈川教区青年会

> 発 行 人 田 哲

編 集 者 净青神奈川編集委員

団研修会が、

年にひき

「新宗教に

ついて

をテー

マに、 研

第二回 会

一神净青他宗教

まる一日を有効に活用

第二

他宗 催

教教 さ

寸

修

報

告

神

浄

研

修

開

3

指導者との座談会を行った後、

こて開催された。その研修内容は、孝道教団・立正佼成会の本部見学と教団

去る二月十七日の早朝より夜にかけて、

報化、 変化、 ある。 鋭敏に対応して大衆の宗教的欲求を きるであろう。この様な状況に最も 満たそうとしてきたものに新宗教 現代の社会状況は①産業構造の変 ②都市化の進行、 の世俗化などを挙げる事がで (4)富裕化、 (5)高学歴化、 ③世代人口の (6)情

団体も数十年 右記の様々な るものも多く の歴史を有す れる諸宗教 新宗教と呼

在の社会に根 りながらも現 問題にぶつか

新

教

に

学

3

【講演中の藤井先生】

らず、 ら出て来るわけで「祖先供養」を霊 3 る 「下ガル」「根性直シ」もここか 創価学会の ている。 因縁 祖先崇拜」 仏教教団として盛んに説かれ 益信仰」 も又、 人間 である。 の基盤であるのみな 祖先崇拝を下 革命」 初 12 期の 相当す 敷に

教義・儀式の整備が必要とされると

今一つは布教活動

で若者を対象とし

て新し

い試みを展

界と自分との結びつきとし、

その結

徳

を勧めることも、

又

同

あるということであ

成教団に近づきつつあり、

その結果

二点であろう。

一つは会員構成が既

教団から見て注目されるのは、 をおろして来たわけであるが、

次既成の成

び懇談が行なわれ充実した研修会であった。 大本山増上寺に於て、 点について触れてみたい。 こで立正佼成会を中 藤井正雄先生の講演及 心にし てて 0

庭野日敬が「真実顕現」を称え、 薩道による根本仏教を説くに至って に依った在家仏教教団への移行とし 見るなら て把握出来る。 立正佼成会の運動を教理 いるわけである。 この教理の中心にあるの 御利益信仰」 及ち長沼妙佼の死後、 から法華経 の面 から から 菩

> る所ではある。 ら見れば、 ても「解決」 と生 る。 死の解決を問題とする仏 このような教理 問題の とならぬ点で疑 解消 は にはなっ 衆 問 生 が残 教 0 カン 教

につくりだされるなかでの悩みの解行である。情緒的な雰囲気が意図的目せねばならぬのは練成道場での修まの低法座がある。勿しさらに注また儀式もしくは修行の中心をなまた儀式もしくは修行の中心をな ある仏教にとって危険ではある る点が多い。 (解決ではない) は知恵の宗教で 信仰の導入としては参考に か

ている点は注目に価しよう。 活用、とりわけ会員の厚生・ 布教活動の面では、 に向けることで会員の欲求に応 画室を設けコンピュー 会費 0 又、 V 集 3 中 企 U ヤ的

大正大学教授 藤 井 正 雄 先 生

逃

すことの出来ぬ

などの組織的な運 会員数の把握、 ターを導入、

佐、布教地

のである。

極的な姿勢にこそ最も学ぶ必要があ るだろう。 の適応は多くの欠点を含みつつも積 以上のような新宗教の現代社会 文責・ 編集部



仮本堂を見学する。

を祭ってあ

信者はモニター 内部に入りきれな 々は当教団の本尊

物が建築中で、 仏殿大道場と呼ぶ 1:0

また、

建物内外

端がうかがわれ

の清掃は毎日信者が

るということだが今

仏舎利殿の横では は見られなかった。 一発的に行なってい

#### 新 宗 教 見 学 記

#### 的 雰 囲 大 企 気 業 0 的 孝 道 活 教 気 0 引 立 IF. 佼

成

会

がらもふだんの指導 名の信者が読経をしていた。 印をもらって帰るという行事が行な 夫妻を祭っている)の前で読経し、 で孝道教団に到着。 朝の挨拶を行なっており、 れており、 ぞれ願をかけて仏舎利殿(前統理 に迎え我々を案内する。丁度二月 二月十七日朝九時、 者同志がでく自然に合掌ととも 口天理ビル裏出発。 寒まいり」と称して、 青空の下で約二~三百 すぐに係員が丁 15 約十分ほど スに 境内で 各自そ て横浜 当然な

いるということに多少の反発を感じ 受けた。我々がそのように見られて 教をめざしています」という説明を いくかを目標とし、いわば生きた仏 教をいかに現代生活の中に生かして ような葬儀、法事中心ではなく、 友好的雰囲気の中説明が行なわれた。 出席して挨拶があり、 であった。見学の後、 孝道教団は、 からつきあいがあるということで 既成仏教にみられる ながらも、 統理御 浄土宗とは古 自身の日 夫妻が

【寒まいり読経中の信者】 々の行 会見であった。 するには時間が短か 欲をわかせるような 今後の我々の活動意 の見学を終える。 さを感じつつ二時 し新しい教団を理解 く、多少の物足りな 次に中野の立正佼 動を反省し、 しか 間

成会へ向う。 聖堂の本尊参拝 度に五百名収 同内食堂で昼 顕現」と呼ぶ方針に変わってからは、くる人が多かったが、同会が「真実 信の動機として病気や経済的問題で

あるいは人間の生

一き方

帰るのだろうか。 達は一日ととで過ご 声があったが、信者 で、何も知らずに来 物内外は非常に豪華 し、そして信仰を増 スセンターだという 風呂でもあればヘル をしていた。これに 多くの信者が食事を 容という大食堂で たつもりになって なみの売店で買物 中にあるデパー

ビの前で参拝しているのが印

た人は建物をみただ

けで畏敬の念を持つのではないだろ

両教団ともに、

小雨の中、

約三時間の見学を終了。 最後まで我々に対し

て非常に気をつかっていた。 昨年に引き続いての研修会。

うか。 っきりとしなかった。 自発的なのか、義務であるのかはは 自分の仕事を休んで、 は知り得なかった。 なかったので、 われていたが、 最も重視する法座というものが行 き方を学ぶ所であるという佼成会の ているとの説明であったが、それが 中では法の真理を中心に正 近くで見学を許され 実際の内容について 毎日多数の人が 無料奉仕に来

場もよく理解することが必要であり、

確立するためには、自らと異なる立 の宗派の中で自己の立場をより強く

そういった意味において、このよう

今後の会員の大勢の出席を望みたい。

森本祐康記

な研修会は、

そのよい機会だと思う。



多く、そのような人 うような現世利益を 崇拝に関しての罰 ことであったが、 が多くなったと であった。 点に苦慮している様 たら良いか、という どのような指導を 々に対して理論的に 求めて入信する人が ずれば癒されるとい たたり、 際にはやはり、 を求めて入信する あるいは信 祖霊



。 先の説明によると、以前では入見学の後、青年部の者と懇談を行

【立正佼成会青年部との懇談】

27)

なるとずっと が、三度目と の雰囲気があ ャンプには独

を会場 合わせ、 修める。 た後は、 宗仲寺本堂で四時半まで別時念仏を 知原組 日 П に行われた。 [を数える家族親睦会が十 族ぐるみ 念仏を唱える姿に心うたれ が当番。午 座間宗仲寺と米軍キャンプ 座間米軍キャンプへの移 子どもたちもそろって手を 0 和 今回は高座組と 後三時の集合。 合 今 月 0

用させて載き一 稚園のバスを利 である。 50 牛中 この座間 ンプへと 座間幼

暗くなっていた。 到着した頃は、 ーティー会場 近感を感じる。 たりはもう薄

物で元気に乾杯をする。ここは飲み 続いて思い思いにオーダーした飲み 先ず柴田会長の挨拶から始まっ 放題なのが嬉しい。 る。 見受けられ パーティーは小杉副会長 ながらの紹介に思わずヤジも飛 愛妻と自信作、 さすがにどちらも幸せ家族 (?) 等々、 会場の中央に並 次は家族紹介で 各会員冷汗を あるいは遇妻 の司会で た

> さんたちの出番、 あ だ豪華な料理 は平野 いあいの内に交歓の輪を拡 ゃぎであった。 + カットなどに子 前会長と座間幼稚園 生を楽 人形劇やゲーム、 3 供たちは大は な から 5 の保母 げる。 和

今回の親睦会は大人五三名、

園の保母さん 並びに座間幼稚 く平野前会長 0 た。 厚く御礼申し上 の御協力に対し、 ンプとの交渉等 供、 労をとって 毎回会場の (北邨記) 座間キ 方 頂

第3回家族親睦会

心をつなぐ念仏とパーテーの夕べ 名が参加し、 会の裡に散会し 三三名の計八

子供

まで称 縁とし している。 西上人の遺蹟を訪ね参拝することに りをより明確にされた浄土宗二祖鎮 しては神奈川浄青でも既に会員二十 画をされたのである。 会を兼ねた― 全国の浄青会員を集め遠忌記念研修 は大本山筑後善導寺を依所として、 に案内されているように、 数名の参加を予定し、 そのようなたかまりの中 し、 て、 浄土宗を― 善導大師と浄土宗の関 ·善導忌大結 更にこれを機 この結集に対 善導宗 集 全浄青で で、 ―の企 す 7 わ ٤

捉え、 とするが、 よってはじめて称名念仏 らばよいのであろうか。 現代の我々はこれをもって浄土開宗 知のでとく承安五年法然上人に どのように位置ずけをしたな 専修念仏――が弘通された。 それまで二十数年 一行による 間 叡 Ш

さて我々はこの結集をどのように

浄 善 集によ 導 忌 せ 7

> 宗に結び での

つけ 験と

たのが

研

鑽を直

等による善導大師

り、

12 0 観

柴

田

哲

彦

善導一

一と述べるごとく、

たと思われる。

上人自ら の面

偏

ける大師 しえであ

授相承であ また夢中

宗のおしえを全面的に支えてい

る 浄

0 土 依 全

きか真剣に取り組む姿勢が次第に どのように受けとめ、そしてなすべ に喜ばしいことと思う。 かまりつつあるようだが、 人々に、この善導忌を宗門人とし 後に迫ってきた。 善導大師一三〇〇年遠忌もあと 宗門に所属 これ は誠 する tz

b である。 が善導教学であるといえよう。 で 義の基本となっている善導教学のよ 々にとって今大切なことは浄土宗教 を必要とすることである。 するほど、 ないのは教義の現代化を指向すれ 々に如何に理解させるかということ は、この念仏のおしえを現代の人 浄青僧侶にとって最大課題 ないであろう。 深い理解が急務、 しかし留意しなければなら 基本的教義の正 といっ つまり我 確な理 ても過言 のひと 解 ば

邁 として、 師 契機となることを願ってやまない である。 である。 が我々一人一人の自覚に結びつく 進しなければならない。 の著作に見られるかたくなな姿勢 我々に相応しい自行と化他とに 願共諸衆生……」 連帯と結策をより深めなが 我々浄青僧侶もこれを指針 2 れ は 善



より、

七万円 会員 同

の浄財を頂載した。 (十名)

の熱意に

ぶ中を、

# 韶

# 組

月二十三日生憎の寒さと雨の 末助け合い募金を実施した。 蔵田寺より戸塚駅頭まで街頭 引き続いて駅頭に於い 度後半の活動としては、 寒風荒 中、 て、 + 歳



予定である。 月には寒稽古(一日)を行ない螢雪 時礼讃」 の功を試し、 年八回開講する予定である。尚、二 として、 本年度活動計 「法事讃」を中心として、 (鎌倉浄青合同)を、 昨年より引き続い 又、礼拝等を実施する 画とし ては、 7 研 の法活

忘年会、新年会も予定している。更ソフトボール大会と懇親会を行ない、 け合い募金を、 12 青会員と家族との交流 団結を深め将来の教化紙の布石とし 又、多くの会員に理解、 愛の活動として、 親睦活動としては、 機刊紙『港南净青』 予定している。 実施の予定である。 十二月に歳末助 Ŧi. の一環として 協力を願い の発刊を五 月に 他 組净

### \*\*\*\*\*\*\*\* 浜 組

員 0 修 あ 0 定例会を開催し、 了したので同会員と共に法式全般 を予定している。 研修を実践していきたいと思う。 る。幸に今度、 研鑽を中心に推進していく予定で が増上寺における法式修練道場を 和五 回目は、酒水の作法につい 十四年度は従来からの隔月 一行寺吉水智栄会 その中で会員相互

未定であるが昨年に引き続き教化団

役員改選により今年

度事業計

画

は

行寺吉水智栄会員 会員消息 昭和五十三

は衷心より敬意を表したい。

参加の港北浄青、

石川、

式修練道場受講 月十 日 から二十六日 I まで

年二月二十一日より三月十三 善導寺古庄良源会員 で伝宗伝戒道場。 昭 和 五. 日十 ま四

無阿弥陀仏 法蓮紅照誉上人知教 年四十才でした。 の情を禁ずる事が出来ません。本仏に活動願えるのにと思うと哀惜 日逝去。これから大いに布教、 でしたが昭和五十三年十二月十二 福寺伊藤一光会員 入院加 光 和尚 療 念 南

### 郡 組

の自覚がかけていた事は残念に思う。 参加するものが限られ、 なかった。 て行きたいと思う。 常時 ての自覚を再確認し、 今年度は初心に帰り、 口 Ŧī. の研修会を行ったが、 十三年度は、 限られ今一歩という所迄いか 又教区の行事においても 組教化 会員として 再出発をし 浄青会員と 団と共催 参加会員 0

との共催研修会は行う予定であ る。

### 11 田 原 組

時と思う。 時期に当り、 一大奮起していただかねばならない 11 田 原 浄青も今年度は役員改選 神浄青同様若い人達 17

と思う。 ける寺の師弟の在り方、 婆の書き方を含む習字、 ている立場を再認識してほし 面で青年僧侶としての自分の置か 題は深く大きいと思われる。 於ける住職と子弟との意志疏通等問 合い等もかさねて来たが、寺院内に 励んでいるが、 当浄青も日夜いろ 松島先生に いろな 運営等話し 面 色々な 依る塔 いも で研 0 n

員の相互援助を望む次第です。 式研修又、組での五重相伝への青年導大師御忌に向けて住職との合同法 楽しい一時を過す事が出 九名と盛大とまではいかなかったが、昨年暮には忘年会を開催、出席者 の参加を目標に努力していくべく会 会としての協力等、 会を開き役員選挙を行う予定。 は前にも述べた通 り、 組及び教化 三月四日に総 来た。 又善 团

参加、 於て活躍される内、 この三月で退会、 今年の加行には都築、 が今後の精進を祈るば て協力していたざいた篠田君には 又この一年間当浄青の会員と 自坊の長野浄青 誠に残念では 本多両名 かりです。 から

### 倉 組

青年であるゾリ」とアピールし活 と対外的にもっと「これが浄土宗 終り『六時礼讃』に入りました。 たことでしょう。 の講習会を毎月一 と一緒に津田法儀司を迎えての法 からの活動を期待します。 会員消息、 を進めていきます。よろしく。 これからは当組も皆様の組に敗け て見ますと、 げられます。 安寺御宝前において、御成婚の儀 を迎えました。 組としては、 玉木弁立氏、 おめでとう!! 何といっても港南 回に渡って錬成 この一年を振り 『法事讃』も一 年 四月発足 四月十二

# 浦 組

は生まれて初めてという人もあり、着なれぬ手っ甲脚半姿。会員の中に ら手とり足とり着方をならい、 光明寺の念仏行進に参加した人々か 托鉢を行い浄財を勧募することにな いあいのうちに、 歳末助け合い運動の一環として、 集合した光徳寺において、 当日は幸い天候にも恵まれた 本尊 浦浄青会は昨年十二月三 読経を終えて二班に 全員支度をとと 普段 和気

> だき、寒風ふく中を偈文を口々に かぎ えて各戸へと散っていきました。 さんより募金箱に多大の寄付をい らも、 ぬワラジばきに足が痛いといいな れ宝蔵 暖かい街の人々の浄財によ 院 まで出発。 光徳寺 の清 唱 to



寺す。 員も本当に托鉢をしてよかった大喜 是非、この様な運動を浄青会 山町の福祉課へ寄付した。 in おこなっていきたいと決意を新たに へ。ここでも光徳寺さんのお手配 のこもった中食の接待を受け、 て重くなった募金箱と共に宝蔵 記念撮影をおえ再び光徳寺へ帰 募金の集計を終え、 今年も又 浄財は葉 会

### 港 北 組

\*\*\*\*\*\*\*\*\*

第一 を賓客として、 部で行ったので、 てきた行事を恒例化することとし、 大会と親睦パーティーを実施。 域の子どもを集めて、  $\mathcal{F}_{1}$ 部井田の善教寺で行う。 子どもの日に寺族特に子ども達 釈迦生誕を祝う「花まつり」を 正しい儀式を執行するための法 子どもを対象とした勤行練成会 + 四 年度行事は会発足以来広げ 他組とのソフトボ 本年は四月八日に 昨年は第三

と共催した布教練習会(会員三名が く活動して行く予定である。 実演)を本年度もぜひ実施したい。 を必要とするため、 でもないが、 以上の他に出来ることからより多 布教の重要性はいまさらいうま 機関紙の年二回の発行。 実践にあたっては勇気 前年度教化分団

## 座 組

共に一層の精進を約束し 浄青の活動資金に多額の予算を計上 ていただき、 12 大河内先生指導の法式講習も二 入り、 年 今までの日常勤行等基本 組寺院総会により当高 会員一同感激すると 120 年

> ます。 併せ 会場は会員自坊持ち回 (原則として偶数月、 法事讃」 の研修も致 第三土 5

間法話の練習をする。 の関連性をさぐる。 地域の民俗信仰の紹介や、 奇数月は会員相互の研究会にあて 通夜、 年回等法要後の三 又 年中行事の 浄土宗と

### 報 告

#### 伝 宗 伝 戒 成 満

総会に於て成満者に記念品を送 します。 たく成満されましたので、 おります。 お祝いの微意を表することになって 次の方々が 度 神奈川教区浄青会員の中よ 青年会としては、 「伝宗伝戒」 御報告致 一を芽出 次期 り、

上七名です。 Ξ  $\equiv$ 港 京 小 田原 浜 浦 浦 浦 十却 净楽寺 道場院 永楽寺 天養院 善養寺 西蓮寺 寺 吉水良周師 古庄良源師 都築融 川隆 士師 光 師

宗発展の為に、 今後の寺坊の教化に専念し、 で活躍を期待し てお

浄青役員会

#### 光 明 寺 + 夜

行楽客で賑う駅前広場にて、

伝カー

を先頭

倉駅頭

向う。

#### 行 楽 客 0 駅 前 広 場 To

# 頭

加 の大変な人出であった。 の上、土曜日と重なり、 一月十四日に行なわれた。 青会員は十時半、 唱導師 度の大本山光明寺十夜会の 大法要の日に合わせ、 本尊前にて結 当日は晴 例年 以上

をし、念仏行進にて本山を出発、

あった。 た感じがし、 手を合わせる姿も多く見られ、行に た参拝客は、一きわ目立つ行脚姿に 師のお練りに参加する。 午後一時、 参加する意義を参拝者より教えられ を行ない、 分にわたり、 念仏とは何か」を一千枚配布した。 再び市内を念仏行進して帰山の後 浄青作成のパンフレット 九品寺より出発する唱導 身の引き締まる思い 宣伝カーより街頭伝導 沿道をうめ

及 び執 行 部 動

愛のプレゼント 奈川県社会福祉会館会長外三名 和 祭り愛の 五十三年 度 残 ゼント 品 会長外十三名 搬4月15 4月8

)関ブロ浄青研修会準備会5月13 茨城・弘経寺 5 月石監事 日

〇全净青理事会 関ブロ 京都・知恩院 城・弘経寺 六回関ブロ浄青研修会6月178 本山 净青常任理 ·增上寺清水副会長外一名 事会 会長外十三名 6 柴田会長 月 10

〇神浄青第一回理事会 6 月 24 日

〇神浄青第二回理事会 〇教区夏期僧堂手伝い7月2789日 大本山·光明寺 大本山・光明寺 会長外二十名 8 月 26 日

〇善道大師遠忌一泊研修会9月1516 〇善道忌研修実行委員会 大本山·光明寺 大本山・光明寺 会長外十一名 9月9日

0 〇神浄青第三回理事 大本山光明寺お十夜 大本山・光明寺 会 9 月 月 14 30 H 日

〇神浄青第二回 〇全国研修参加 横浜·福久 熱海·山木旅館 港北組・蓮勝寺 「他宗見学」 横浜·加登屋

大本山·光明寺

〇善道忌研修実行委員会 大本山・光明寺 会長外七名 7月6 日

〇全净青第八回中央研修会8月293日 京都・清涼寺 柴田会長

本山 · 光明寺 · 鎌 倉駅 頭 10

神浄青家族親睦会11

月 18

H

○神浄青役員会 横浜・ステーショ 実行委員会1月10 実行 ンパーラー 委員会12月21 座間キャ 会長外五 会長外九 12月2日 日 日

〇神浄青役員会 〇全国研修参加実行委員会1月12 〇神净青第四回理事 〇第二回神浄青他宗見学 大本山·光明寺 港北組·蓮勝寺 横浜孝道教団 一泊理事会1月2021日 杉並区立正佼成会 会 会長外十三名 会長外七名 会長外四名 会長外四 2 月 17 2 月 27 日 3月3日 日 H

〇新羅仏教を訪 〇善導忌一三〇〇年御忌大結集於九 縄袋中寺青雲寮落慶式 4月2日 3月3日~4月2日 ねて 4月2~4日 会長外二十

花まつり愛の ゼ ントッ

迦

誕

生の悦

ZK

動を神浄青の合言葉である《化他 花まつり愛のプレゼント ちあおうノ

功させたく、 計画している。 の実践』とし

絶大なるご協力を期待

全員参加によって成

て、

左記のように

◎プレゼント先・金沢母子寮 ◎日時・ 時プレゼント及び花まつりの集い 午前十一時集合 (光明寺) 祉関係団体等にお渡しする予定) が多数集まった場合には、 昭和五 四年 四月十四 午後二 他の福 日

後 記

浄青会員の皆々様の御協力を得まし て、恙なく第四号まで発行できま 一間、 厚く御礼申し上げます。 白石謙佑· 色 一々と御 野中省道 無 理申し上げ、

雄・京浜・森本祐康両君が受け継 敷く御指導・ でくれる事になりました。 石川到覚師のもとに小田原・北邨賢 い編集委員は大正大学助手、 御 鞭撻の程 お願い申 今後共宣 15

▼今年度の行事予定は、 上げます。 次期 執 行

柴田会長

がたえないよう次期執行部お願いし ▼善導忌研修、光明寺十夜、 未定ですので割愛しました。 花をさかせています。 他宗見学等、 神浄青の企画、 花ま 花見 0